

詩篇 119:169-176

- 169 私の叫びが御前に近づきますように。主よ。みことばのとおり、私に悟りを与えてください。
- 170 私の切なる願いが御前に届きますように。みことばのとおり私を救い出してください。
- 171 私のくちびるに賛美がわきあふれるようにしてください。あなたが私にみおきてを教えてください。
- 172 私の舌はあなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せはことごとく正しいから。
- 173 あなたの御手が私の助けとなりますように。私はあなたの戒めを選びました。
- 174 私はあなたの救いを慕っています。主よ。あなたのみおしえは私の喜びです。
- 175 私のたましいが生き、あなたをほめたたえますように。そしてあなたのさばきが私の助けとなりますように。
- 176 私は、滅びる羊のように、迷い出ました。どうかあなたのしもべを捜し求めてください。私はあなたの仰せを忘れません。

תִּקְרַב רִנָּתִי לְפָנֶיךָ יְהוָה כְּדַבְּרֶךָ הִבִּינֵנִי:
 תָּבוֹא תַחֲנֹנֲתִי לְפָנֶיךָ כְּאִמְרֹתֶיךָ הַצִּילֵנִי:
 תִּפְעֹנָה שְׂפָתַי תְּהַלֵּה כִּי תִלְמַדְנִי תִקְיֶיךָ:
 תַּעַן לְשׁוֹנֵי אִמְרֹתֶיךָ כִּי כָל־מַצּוֹתֶיךָ צֶדֶק:
 תִּהְיֶי-יָדְךָ לְעֲזָרְנִי כִּי פִקּוּדֶיךָ בְּחַרְתִּי:
 תִּאֲבֹתִי לִישׁוּעָתֶךָ יְהוָה וְתוֹרֹתֶיךָ שְׁעֵשְׂעֵי:
 תַּחֲיֶי-נַפְשִׁי וְתִהְלֶלְךָ וּמִשְׁפָּטֶיךָ יַעֲזָרְנִי:
 תַּעֲיִיתִי כְּשֶׁה אֲבִד בְּקֶשׁ עֲבָדֶךָ כִּי מַצּוֹתֶיךָ לֹא נִשְׁכַּחְתִּי:

第二十二字「ターウ」。第九字「テース」のときに、以下のように説明させていただきました。「ヘブル語では「t」に相当する子音が二つあり、もう一つは最後の「ターウ」ですが、どちらかという「テース」の方が鈍い響きを持ちます」。

- תִּקְרַב (תִּקְרַב) / ティクラヴ (カーラヴ) …近くに來る、近づく、中に入る、近くに引き寄せる (169)
- תָּבוֹא (תָּבוֹא) / ターヴォー (ボー) …入って行く、入る、行く (170)
- תִּפְעֹנָה (תִּפְעֹנָה) / タンバエナー (ナーヴァー) …注ぐ、注ぎかける、噴出する (171)
- תַּעַן (תַּעַן) / タアン (アーナー) …答える、応答する、証言する、話す、叫ぶ (172)
- תִּהְיֶי- (תִּהְיֶי-) / ティヒー (ハーヤー) …成る、実現する、存在する、起こる (173, 175)
- תִּאֲבֹתִי (תִּאֲבֹתִי) / ターアヴティー (ターアヴ) …切望する (174)
- תַּעֲיִיתִי (תַּעֲיִיתִי) / ターイーティー (ターアー) …間違いを犯す、迷う、道に迷う、よろめく (176)

詩篇 119 篇も最終回となりました。延々と「神のことば」にこだわって各節を綴り、その御言葉に立って歩む決意を幾度も新たにしてきた詩人でしたが、最後はどのように締めくくるのでしょうか。文章は書き出して読者の心を掴めるかどうか懸かっていると言えますが、締め括りは本論を総括するものとなるだけにより重要です。舞台裏を明かすようではありますが、私が説教を書くときに心がけていることとして、基本的に結論を定めてから全体の構成を組み立てるようにしています。その結論が全体の背骨となることを考えながら、序論では問題提起や関連事項の提示、本論ではテキストを解説しながら少しずつ結論に近づいていくことを目指しています。それが適切にできるときもあれば、課題が残ることもあります。

本篇の作者が結論を念頭に置いてここまで書き進めてきたのかどうかは分かりませんが、最後の 176 節は「私は、滅びる羊のように、迷い出ました。どうかあなたのしもべを捜し求めてください。私はあなたの仰せを忘れません」という告白で終わっています。ここで思い起こすのは、イザヤ 53:6 の「私たちは皆、羊の群れのようにさまよい、それぞれ自らの道に向かって行った。その私たちすべての過ちを、主は彼に負わせられた」という預言者のことばです。預言者イザヤは、神からのことばを取り次ぎながら、自らを民の一人に数え、自分もまた道に迷う羊であり救い主が必要なのだと自認しています。神の御前でへのりくださった姿勢は本篇の作者の態度にも現れています。彼は、神のことばに近く歩むとき、自分の問題がいよいよ克明に見えてきたのでしょうか。

今日の箇所の中にも、明確な並行文が複数存在します。

169 私の叫びが御前に近づきますように。主よ、みことばのとおり、私に悟りを与えてください。

170 私の切なる願いが御前に届きますように。みことばのとおり私を救い出してください。

神に具体的な祈りをささげるに先立ち、これから祈る事柄が受け入れられるものとなるようにと願っています。私たちが御言葉を学び祈る前に、聖霊を求める祈りをささげるのに似ているでしょう。

171 私のくちびるに賛美がわきあふれるようにしてください。あなたが私にみおきてを教えてください。

172 私の舌はあなたのみことばを歌うようにしてください。あなたの仰せはことごとく正しいから。

神のことばを学ぶところから湧き出てくるもの、それは賛美です。古より、賛美というものは神のことばを聞いた人の魂から溢れてきたものです。神のことばそのものに旋律を付けた人もいれば、自分の情感を歌詞にしてメロディを付けた人もいます。そもそも、詩篇は歌として歌われたものだったようです。

「あなたの御手」(173)、「あなたの救い」(174)、「私の助け」(175)と用語を替えながら、詩人は神のことばが自分の人生をあらゆる危険から救い出してきたことを証しします。私たちも、信仰者としてこの生涯を全うするとき、神のことばによって支えられてきたことを確信として周囲の人々に証ししたい。私たちは「迷い出た羊」でありましたが、救い主イエスに捉えられ、私たちをお造りになった方の許に帰ったのです。そのような幸いな人生であったということを、死後にも証として立てられる歩みを全うしたいと思います。